

## 令和 3 年度第 2 回長野県住宅審議会における意見・提案要旨と対応について

	意見等要旨	対応等
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ しあわせ信州“住まい方”ビジョン 2030 が取り入れられた素案となっているが、総花的な印象がある。</li> <li>➤ 「住宅施策の展開」の同じ言葉をまとめてほしい。各施策がつながりを持って目標に進むことが出来るのでは。 (「省エネルギー化の促進」と「高性能省エネルギー住宅の普及促進」など)</li> <li>➤ 長野県内の指針・施策との連携を明記してほしい。より推進力・実効性のある計画となるのでは。 (「長野県森林づくり指針」など個別計画に各施策や取組が明記されている)</li> </ul>	住宅施策の展開について、重複する内容を統合するなど、整理しました。また、個別計画に関する事項も一部記載しました。
武者会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「住宅施策の展開」の重複や階層関係を整理してほしい。</li> <li>➤ 林業など横のつながりについて、連携関係の表記を工夫してほしい。</li> </ul>	
下平委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「1-4 自然災害に備えた住生活の強靱化」に非常時の住まいの復旧などがあるといいのでは。</li> </ul>	1-4 は災害に対する強靱化に関する事項、4-3 は災害発生後の対応を記載しています。
小野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 5 章にある連携・協働の考えや表現をより強く打ち出してほしい。</li> </ul>	横断的な連携、住生活に係る多様な主体の関与について記載しました。
武者会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 多様な主体の参加は住宅施策に限らずに重要である。</li> </ul>	
下平委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 県産材の活用や技術の伝承は重要な項目である。</li> </ul>	P53、5-1-2 に記載しています。
原委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 「1-2 地消地産の住まいづくり」関連でいま問題となっているウッドショックを契機に木材自給率の視点を入れてはどうか。住宅づくりの主な資材である木材の安全保障に関わる。</li> </ul>	1-2 に木材自給体制に関する事項を記載しました。
武者会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ウッドショックは短期的な問題。自給率のような長期的な問題こそ基本計画に記載すべきでは。</li> <li>➤ 見出し・指標も出荷量ではなく自給率に着目し、メッセージ性を持たせては。</li> </ul>	

柳澤玉枝 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 在宅希望者への支援は、「3-1-1 快適で健康な居住空間の確保」や「3-1-2 バリアフリーに配慮した生活空間の確保」と考えて良いか。</li> </ul>	1-3 健康長寿の住まいづくりは、ヒートショック対策やバリアフリー化など住まいのハード対策を、3-1 は高齢者居住安定確保計画を兼ね、フレイルや家族の状況など高齢者に総合的に特化した内容です。
武者会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「1-3」と「3-1」の書き分けが難しいのでは。</li> </ul>	重複する施策については、「再掲」として掲載しています。
柳澤玉枝 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 「4-2住宅確保要配慮者のための住宅セーフティネットの充実」の居住支援は、市町村の福祉部局や相談窓口などの担当者との連携が重要である。</li> </ul>	国の方針に、県主体の居住支援から市町村主体の支援への切り替えとあります。第5章の推進体制に具体的に記載しました。
武者会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ P55 の連携や主体の表現は抽象的なので、具体的な内容を検討しては。</li> </ul>	
柳澤恵子 委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 住み替えや高齢者の暮らしなど、お金の心配が出てくる。P55 の専門家・NPO との連携に、暮らしやお金に関わるネットワークや連携があるといいのでは。</li> </ul>	ファイナンス関連について第5章の推進体制に記載しました。
武者会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ ファイナンス関連を取組主体に取り入れてほしい。「2-2 ライフステージに応じた住まいの選択」でも重要となるのでは。</li> </ul>	
古後委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 今後も必要性が高まる「住教育」、「担い手」などの教育関連を充実してほしい。</li> <li>▶ アーティスト・イン・レジデンスの支援なども教育関連に近いのでまとめてはどうか。</li> </ul>	2-2 及び 3-3 に記載しました。
武者会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶ アーティスト・イン・レジデンスは「再掲」でもいいのでは。</li> <li>▶ 県内・市町村でも文化政策で取り組みがあるので取り入れては。</li> <li>▶ 教育・継承は各分野において重要なテーマのひとつである。</li> </ul>	

平賀委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 大工さんの労働環境の改善やドイツにあるマイスター制度など、入職希望者の増加につながる制度があると良い。</li> </ul>	5-1 にキャリアアップシステムを含めた担い手施策を記載しました。
原委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 建設業の職人組合も担い手確保に苦慮している。</li> <li>➤ 建設キャリアアップシステムという技能者のキャリアパス制度があるが、登録者数は目標 300 万人に対して 66 万人に留まる。</li> <li>➤ 指針になり得る制度として例示してはどうか。</li> </ul>	
平賀委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 信州の魅力のひとつとして、農のある暮らしや森林の近い暮らしなどがあるとと思う。書き加えてはどうか。</li> </ul>	
武者会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 信州らしさの記載内容が大人しい印象があるのでもう少し色を出しては。</li> </ul>	農政部局と調整し、農ある暮らし・住まい方について 3-3 に記載しました。
平賀委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 国の施策の「子育て世帯が安心して居住できる賃貸住宅市場の整備」は重要。良質な賃貸住宅をつくるのが住宅全体のイメージを高める。</li> <li>➤ 賃貸住宅の整備は、県外からの移住者に対する一番のプレゼンテーションの場となる。</li> </ul>	
小野委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 長野県らしい賃貸住宅を整備するには、良質な賃貸住宅そのものが不足している。賃貸住宅に対する補助制度などもあるが、個々が抱える理由もあり、課題は大きい。</li> </ul>	子育て世帯を想定した賃貸住宅の質的向上についても、国同様に県計画でも目標達成指標に位置づけました。
武者会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 賃貸住宅や市場については、空き家対策とも絡んでくるため、大きな課題である。</li> </ul>	